

都市局長賞

川内南小泉線整備事業 (仙台市)

■表彰対象者：仙台市建設局道路部

表彰の理由

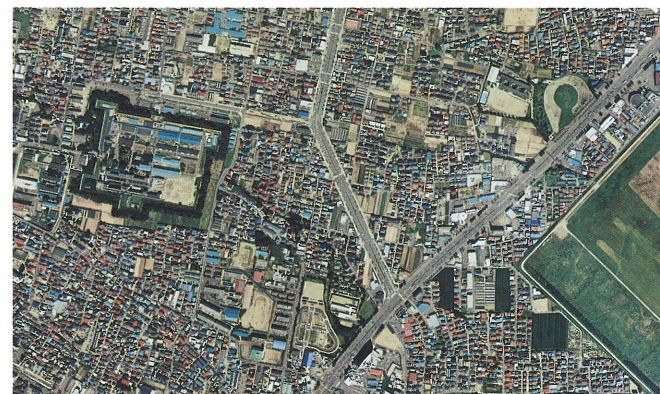
この事業は、昭和41年に事業に着手したが、一部の地権者から強い反対等があり、工期が大幅に延長された。その後のねばり強い交渉により用地取得にこぎつけたものである。これらの地道な努力が評価の対象とされた。



若林区大和町から北側を望む



若林区大和町から南側を望む



車は幹線道路に吸収され、住環境も大幅に改善

事業の効果

川内南小泉線の当該区間の現在の交通量は、約2万台/日であり、通過交通の集約効果がみられ、また、沿線の土地利用も事業着手当時は、主に住宅及び農地であったものが、郊外型の大型店舗及び飲食店などが建ち並び、にぎわいを見せている。また、近年、用途地域の見直しでより高度な土地利用が可能となったことから、今後も新たな進展が見込まれる地区である。

- 延長：1,800m
- 幅員：36m
- 全体事業費：4,180百万円
- うち街路事業費：4,180百万円
- 事業期間：昭和41年度～62年度

大手前通りシンボルロード整備事業 (姫路市)

■表彰対象者：姫路市道路局建設部街路建設課

表彰の理由

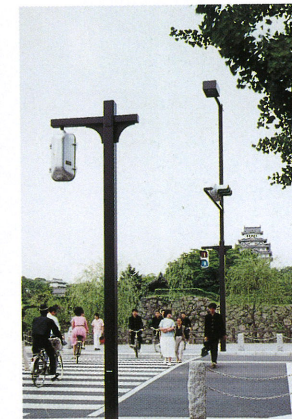
国宝姫路城を背景に緑と文化の香りの感じられる街路整備を行った。随所に細やかな心づかいが感じられ、姫路祭や青空バザールなどを通じて市民が楽しめる街路整備が行われたほか、市街地に地下駐輪場を確保したことなどが評価された。



姫路城をモチーフとして演出したシンボルロード



緑豊かなゆったりとした歩道空間



信号や標識を一体化した道路照明灯



彫刻のある街角



JR姫路駅より姫路城を望む

事業の効果

シンボルロードの再整備により、交通の流れがスムーズになり接触事故等が減少した。バス・タクシーの利用も快適と好評である。また、祭りや行事などに機能を最大に発揮する自由度の高い空間を備えた道路として、多目的かつ有効的に利用されている。

自転車駐車場の整備により放置自転車対策に寄与している。

- 延長：830m
- 幅員：50m
- 全体事業費：1,138百万円
- うち街路事業費：1,065百万円
- 事業期間：昭和58年度～62年度

事業のあらまし

世界文化遺産・姫路城と播磨地域の玄関口JR姫路駅を結ぶ駅前幹線（大手前通り）は、昭和30年に完成し、当時から姫路城とともに当市のシンボルとしての役割を果たしてきたが、時代の流れとともにシンボル性にもかげりがみえてきた。そこで、緑豊かで市民に親しまれ風格ある街並み景観を創出し、シンボル性を復活させるためシンボルロード整備事業に着手したものである。また、放置自転車問題を解消するため、地下に自転車駐車場の整備を行った。